

板垣政法論

五古周二編輯

全

柳田文庫

文庫11

A 1943



明治四十四年三月發行

五古周二編輯

板垣退助君肖像

肖像並小傳附

發兌元

東京自由樓藏

文庫 11
A 1943

板垣退助君肖像



板垣退助君小傳

小傳

板垣退助君小傳

君ハ高知ノ藩士旧名ヲ正形ト稱ス幼ニシテ穎悟氣品
自カラ群兒ニ異ナリ專ラ書ヲ讀ミ武ヲ講ジ特ニ兵學
ニ通曉ス壯年ニ及ンデ藩主容堂公ニ事フ寵遇頗ル厚
シ此時ヤ幕政漸ク衰ヘ其弊勝ゲテ數フベカラズ遂ニ
天下ヲシテ不測ノ患難ニ陷ラシメントス君慨然トシ
テ天下ニ先ツノ憂ヲ抱キ國家ノ衰運ヲ挽回セント欲
スルニ切ナリ是ニ於テ深ク意ヲ時事ニ注ギ大ニ民治
ノ理ヲ考究ス當時後藤象次郎福岡孝悌氏等ト共ニ深
ク杞憂ノ感ヲ同フシ益々慷慨悲憤ノ志ヲ蓄フ幾クモナ

板垣退助君小傳

自由標榜本
クシテ戊辰東征ノ役アルニ遭フ是ニ於テ深尾丹波土
藩ノ兵ヲ督シ君ハ其大隊司令官タリ谷干城小軍監タ
リ遂ニ甲府勝沼壬生安塚大桑今市等ノ戦ヒ及ビ白川
三春棚倉ヲ破リ長驅シテ會津ニ向ハントス時ニ官軍
多ク二本松ニ據リ兵ヲ分ツテ仙台以下ノ諸藩ヲ攻メ
急ニ會津ニ進ムヲ欲セス此時君伊地知正治氏ト共ニ
參謀タリ相議シテ曰ク奥羽二州概子賊巢タリト雖モ
其指シテ巨魁トナスモノハ独リ會津アルノニ其他ノ
輩ハ敢テ顧ルニ足ラズ巨魁既ニ斃レバ其他ハ隨ツテ
殲滅セン謀失フベカラズ機誤ルベカラズト遂ニ五藩

ノ兵ヲ率中急劇之ヲ攻撃シ其降服ヲ聽ヒテ而メ還ル
東征ノ役君ヲ以テ第一ノ殊勳ト稱スルモ溢美ニ非ル
也明治二年四月參興ニ拜シ尋テ十三日岩倉東久世等
ノ諸君ト共ニ并テ行政機務取扱ノ事ヲ命ゼラル其翌
日君特ニ賞典取調掛ヲ專任ス五月十五日ニ至リ朝廷
諸功臣ヲ賞シ兵部卿嘉彰親王以下三百三十九人ニ賞
詞慰勞ノ典アルニ際シ君ニ賜フニ賞典祿千石ヲ以テ
ス是ニ至テ官制漸ク定ル朝廷諭シテ大久保水戸氏等
ト共ニ劇職ヲ解カシム因テ待沼院學士ニ補セラル既
ニシテ府藩縣ノ制度ヲ定ムルニ方リ君ヲ以テ高知縣

大参事トナシ國ニ就カシム此時ヤ維新ノ業稍其基礎
ヲ開キ政事ノ改革既ニ其緒ニ就ク者數フルニ勝ユベ
カラス然リト金氏天下ノ人心猶未々其謀ルベカラザ
ルアルヲ以テ特ニ殊勳ノ名望アル者ヲ以テ其國ヲ鎮
撫セン事ヲ慮レバナリ庚午十一月岩倉大納言勅ヲ奉
シテ島津久光毛利敬親ノ兩君ヲ召ス既ニシテ島津氏
ハ適マ疾ニ罹ルヲ以テ大参事西郷隆盛氏代ツテ上京
スルニ際シ木戸氏ト共ニ高知ニ至テ君ト計畫スル処
アリ遂ニ伴フテ上京ス是ニ於テ天下ノ大勢ヲ察シ廢
藩置縣ノ議全ク定リ薩長土三藩ノ兵力ヲ奪ハンガ為

メニ十七大隊ノ兵ヲ徵シテ兵部省ニ類ス抑モ此ノ事
ヲ謀ルヤ君與ツテ大ニ功アリ既ニ以テ顯官諸士ノ黜
陟アリシニ及ビ西郷隆盛氏等ト共ニ参議ノ職ニ任ズ
蓋シ内閣ニ於ルヤ更定スル所ノ制度ハ前後多ク西郷
木戸大隈ノ諸氏及君等ノ議ニ成レリト當時稱シテ世
ニ廟堂ノ四柱ト稱ス時ニ我國海外諸州ト其交誼ヲ全
フセント欲スルヲ以テ遂ニ岩倉大臣ヲ以テ特命全權
大使トナシテ海外ニ差遣スルニ至リ大久保木戸伊藤
ノ諸氏之レニ副タリ癸酉七月ニ至リ使命ヲ全フシ歸
朝ス是時ニ方ツテ西郷後藤副島江藤ノ諸氏等ト共ニ

征韓ノ議ヲ主張シ既ニ其準備ヲ整ヘント欲スルニ際
ス然ルニ岩倉木戸等ノ諸氏固ク非戰ノ議ヲ執ツテ聽
カズ是ニ於テ廷議合ハズ黨派兩立ノ姿トナリ征韓ノ
論全ク排セラレ所トナリ其事遂ニ行ハレズ西郷江
藤後藤副島及ビ君等諸氏決然トシテ同時ニ冠ヲ掛テ
去ル此レヲ内閣第一ノ更迭ナリトス尋テ君副島後藤
江藤等外三氏ト共ニ連署シテ民撰議院ヲ起スベキノ
議ヲ以テ之ヲ左院ニ献ス之レガ為メニ天下ノ學士論
者ガ意見ヲ進捗シテ頗ル政事上ニ感動ヲ與ヘタリキ
幾クモナクシテ佐賀ニ江藤氏ノ變アリ踵テ台湾問罪

ノ師起ル是ニ於テ復タ一ツノ紛議ヲ生シ要路ノ大臣
職ヲ辞シテ故國ニ帰ル者アリ此ヲ第二ノ内閣更迭ト
ス時ニ一紳士アリ大坂ニ退隱ス竊カニ内閣ノ紛議ヨ
リ功臣ノ分離セシヲ歎シ其間ニ介在シテ調和好合セ
ンコトヲ欲ス是ニ於テ君ハ高知ヨリ出テ大久保伊藤
ノ二氏ハ東京ヨリシ木戸氏ハ山口ヨリ共ニ大坂ニ至
ル遂ニ相會メ將來施政ノ方向ヲ議ス議成リテ互ニ後
事ヲ約シ相伴ツテ東京ニ至ル世ニ之ヲ大阪ノ會議ト
云フ三月君木戸氏等ト共ニ復タ參議ニ任ス是ニ於テ
乎遂ニ四月十四日我 天皇陛下聖詔ヲ降シテ立憲政

体ノ基礎ヲ開キ從テ地方官會議ヲ設クルガ如キハ乃
 子大坂ノ誓ヲ履行スルモノニ源スト云フ既ニシテ同
 キ十一月ニ至リ江華ノ警報至ルニ及ビテ君ノ議再ビ
 廟堂ノ諸士ト協ハズ時ニ島津氏左大臣タリ適マ君ト
 議ヲ同フス終ニ共ニ其議ノ行ハレザルヲ以テ直千ニ
 職ヲ辞シテ去ル是レヲ内閣第三ノ更迭トス君甬來高
 踏飄然南海ノ風月ニ逍遙シ影ヲ世間ニ絶ツモノニ似
 タリ然レモ始終其志操ヲ変ゼズ愛國憂世ノ情ニ切ナ
 ルヲ以テ飽マデ民権ヲ伸張シ立憲政体ノ基礎鞏固ナ
 ラン事ヲ希望シ固ク其持論ヲ執テ撓マズ高知ノ人士

悉ク其風ヲ欽仰シ終ニ立志社ヲ設立シテ同志輩ヲ會
 同ス以テ一大論場ヲ開キ人材ヲ鑄冶スルニ孜々セリ
 時ニ薩賊ノ肥後ニ進入スルニ際シテ君適東京ニ在リ
 シガ俄カニ後藤氏ト共ニ高知ニ歸リ專ラ闔縣士族ヲ
 シテ輕拳暴動以テ國安ヲ妨害スル等ノ事ナカラシム
 ル為メニ痛ク力ヲ盡サレ夫ヨリ後愛國社ナル一社ヲ
 設置シテ以テ全國ノ愛國憂世ノ志士ヲ結合シ飽ク迄
 テ持論ヲ主張シ今田國會開設請願アルニ至レリ抑我
 國古來未曾有ノ大改革ヲ為シテ王政復古ノ鴻業ヲ開
 キ卑屈奴隸ノ民心ヲ鼓舞シ開明進歩ノ針路ヲ指示シ

今日アルニ至ラシメンモノ君ヲ措ヒテ亦夕誰ゾヤ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

柳田泉天庫

緒言

予曾テ土佐ニ在リ一日板垣退助君ニ會シテ問
テ曰ク今也國會ノ事ハ議論已ニ進ミ帝ニ諸人
ノ肉眼能ク看ルノミナラズ近眼モ亦能ク之ヲ
睹ルヲ得ルカ如キニ至レリ今ヤ豈夫レ千里鏡
ヲ以テ覩フガ如キモノナカラシ耶君乃チ應テ
曰ク善矣哉問也居吾諸ヲ卿ニ語ラン吾嘗テ無
上政体ノ論アリ夫レ這論ヤ敢テ必シモ如斯遠
シト謂フニ非レ臣世ノ淺見者流ノ為メニ之ヲ

自由樓藏本

言ハ、其レ或ハ望遠鏡ヲ以テ遙ニ覩フカ如ク
ナラン乎ト即チ其大意ヲ吐ケリ予之ヲ聞クニ
大ニ余心ヲ合セズト云フナク後更ニ之ヲ尋
窮シ之ヲ敷衍シテ而シテ筆記スルヲ如左看者
宜ク盛意ヲ涼^涼シテ閱讀ヲ下セ

植木枝盛識

右ハ本編ノ緒言ナリ而シテ余本編ヲ得ルニ隨テ
讀一讀スルニ感ズル所ノモ、頗ル多ク亦君平
素持論アル所ノ一斑ヲ窺フニ足レリ因テ之ヲ
採録愛觀シテ手常ニ卷ヲ放タザラシムル茲ニ
日アリ一日友人相會ス時ニ机上此編アリ友人
一讀シテ曰ク此編ハ彼ノ有名ナル板垣君ノ政
法論カ余曰ク然リ友人熟讀賛美シテ上梓セン
トヲ余ニ勸ムル再三ナリ余モ亦君ヲ欽慕スル
ノ情自ラ整スル能ハス遂ニ君ノ肖像小傳ヲ併

セ記シテ以テ板垣政法論ト題シ之ヲ世ニ公ニ
スト云爾

明治十四年三月

編者誌

日マリ一日大入所會... 本ハ本編ハ...



板垣政法論

○無上政法論 板垣退助述 植木枝盛筆記

萬國共議政府ヲ設ケ宇内無上憲法ヲ立ツベキ
ヲ論ス

第一首論

嗚呼吾侪カ相生相養スル宇内億兆ノ同民吾カ國力共
存共立スル世界千百ノ同邦ハ其レ十分ノ自由自主ヲ
好マサル乎最大最多ノ幸福ヲ冀ハサル乎其レ將夕今
日ノ事物ヲ以テ足レリト爲ス乎今日ノ状態ヲ以テ至

レリト爲ル乎此ニ甘ンセント、スル乎此ニ安ンセント
 スル乎吾儕ハ今茲ニ眼ヲ放テ世界ノ形勢ヲ通覽シ、又
 各國ノ形状ヲ觀察スルニ、其各國一邦内ノ事物ニ於テ
 ハ、若クハ政治、若クハ法律、若クハ學術、若クハ技藝等ノ
 モノ、概シテ漸ク良美ニ赴キソノ今日ニ在テ文明開化
 ト云フモノ、如キハ、固ヨリ未タ十分完備ニ至ラスト
 雖モ、而カモ之レヲ古昔ノ未開野蠻ナル時代ニ比スル
 時ハ、決シテ少小ナラサルヲ進步ヲ得タリト謂テ曾テ
 不可アルヲ知ラサル也、然リト雖モ、宇内各國間ノ形勢
 至テ六、決シテ右ノ一國內ノ古ヨリ今日ニ及フ迄漸

ク文明開化ニ赴キシカ如ク能ク改良進步シタルヲ无
 ク、縱令少小ノ變更ナキニ非ザルモ、概シテ其大体ヲ論
 スレハ、則古今同轍、大ニ野蠻ヲ極メ、鄙陋ヲ尽サ、ルハ
 莫ク、暴亂ヲ尽サ、ルハ莫ク、其レカ爲メニ彼ノ各邦國
 内ノ事物モ亦多少ノ影響ヲ感受メ、毀損ヲ蒙リ、多少ノ
 壓抑ヲ頂受シテ、困迫ヲ蒙リ、間十分ニ國家ノ國家タル
 本趣意ヲ貫キ達セザルヲモ亦甚カラシテ、天下民人
 ノ幸慶福利モ隨テ減殺セラレ、一ヲ免カレサルモノ
 有ル也、豈ニ是レ斯ヲ可ナリト爲ン乎、吾儕己ニ國家ヲ
 建ツル者ニ於テ、曷ソ此ニ黙止スヘケン哉、曷ソ此ニ滿

足レ此ニ安ンズ可ケン哉、必スヤ今更ニ勉爲スル所ナ
クンバアル可ラサル也、

夫レ人七フ先ツ嘗試ミ之ヲ觀ヨ、今日ニ在リテ國家ノ
体ヲ得タル所ノ者ニ在テハ、各々其國ノ政事ニ多少ノ
差異ナキヲ免カレズト雖モ、而カモ國內ニ於テハ則妄
ニ人ヲ殺シ、人ノ物ヲ盜ミ、人ノ貨物身体生命等ヲ害シ、
私ニ人ト争鬪シ、人相食ムガ如キヲハ其國ノ政治法律
等ヲ以テ之ヲ禁シ、之レヲ制シ、其罪ヲ犯ス者ハ、輒チ之
レヲ罰責シ、ソノ害ヲ受クル者アレバ、則之レヲ保護シ、
總テ邪惡ノ所業ハ務メテ社會上ヨリ廢絶セシメント

謀ラザル者アレシ哉、然ルニ眼ヲ一轉シテ、宇内間ノ形
勢ヲ一觀セン乎、各相争テ、動モスレハ貴重ノ人命ヲ殘
害スルノ無數ナルヲモ顧ミス、互ニ兵ヲ起シテ、戦鬪ス
ルアリ、且ツ其ノ戦鬪レテ勝ツ者ハ、便チ或ハ他國ノ國
土ヲ分取シ、或ハ一國ヲ擧ケテ没收スルニ至ル、凡ソ大
且強ナル者ハ、猥リニ小且弱ナル者ヲ壓倒シテ、其肉ヲ
食トスル者アリ、智アリ略アル者ハ、他國ノ愚昧ニ乘ジ
テ其土地ヲ掠奪シ、以テ之レヲ己レノ屬有トスルヲア
リ、有害ノ毒物ヲ將テ頻ニ此レヲ他國ニ賣付シ、少シモ
憚ル所ナキ者アリ、他國ノ暗昧ニ對シテ不正ノ條約ヲ

締結スル者アリ、隱秘不正ナル外交政略等ヲ立テ、非
道ヲ營ム者アリ、若シ其形状ヲ一言スレハ、之レヲ宇内
ノ戰鬥ト云フ可キ歟、寧ロ無法無政ノ亂世ト稱セサル
ヲ得サル也、而レテ今且ツ其言ヲ翻シテ更ニ之ヲ云ハ
、今日天下ノ國內ニ於テハ己ニ奴隸ヲ廢セサル者少
シト雖モ、世界ニ在テハ則人ノ國ヲ奴隸ニシテ之ヲ有
スル者アリ、國內ニ於テハ私ニ腕カヲ以テ爭鬪スルヲ
禁セサル者少シト雖モ、宇内ニ在テハ猥ニ兵ヲ以テ戰
鬪スル者アリ、國內ニ於テハ人相食ムヲ禁セサル者少
シト雖モ、宇内ニ在テハ人相食ム者アリ、國內ニ於テハ

ハ人ノ物ヲ害シ、身体生命等ヲ害スルヲ禁制セサル者
少シト雖モ、宇内ニ在テハ人ノ國土ヲ害シ、人ノ國權國
益ヲ害スル者アリ、幾ント亂暴ヲ極メサルハ莫シ、其事
ノ國家ノ事ト相適合セサルモ亦甚シカラス哉、抑モ亦
不可ナルノ至リナラズ哉、將タ之ヲ默止スルニ思ヒン
哉、
曰、然ラハ則之ヲ如何シテ可ナラン乎、夫レ今ノ務ム可
キ所ノモノハ、斷然天下ノ各國ヲ破壊シ、宇内ヲ一大共
和國ト爲スヘキ乎、又ハ一大君王國ト爲スヘキ乎、曰、否
ナリ、是レ太夕非ナリ、夫レ天下ハ則其土地廣シ、邦國ハ

則其數多シ、各々其教化生育ヲ異ニシ、各々其風習ヲ存
シ、各々其氣質ヲ有シ、開化アリ、未開アリ、開化ト云フノ
中ニ在テモ亦多少ノ淺深アリ、未開ト稱スル中ニ就テ
モ亦多少ノ階級アリ、概スルニ文明ノ度各相同シク相
一ナルヲ得スシテ、各其適宜アリ、各其好惡アリ、此ニ
宜シキ所ノモノ、彼ニ適セサルヲアリ、彼ニ適スル所ノ
者、此ニ宜シカラサルヲアリ、故ニ邦國ノ各々獨立シテ
而メ後克ク其幸福ヲ得ヘク、相分立シテ而シテ後克ク
其自由ヲ得ヘシ、敢テ之ニ合一スルヲハ元來理ナキノ
事ニシテ、且ツ其結果ニ於テモ亦必ス自由幸福ヲ受得

スヘカラサル可シ、吾儕ハ決シテ之ヲ好マサル也、決シ
テ之ヲ望マサル也、況シヤ一人ニシテ宇内ヲ吞併シ、世
界ノ大權ヲ掌握スル等ノ事アルヲ欲セン哉、蓋シ古今
ノ史典ヲ閱スルニ、彼ノ希臘ノ歴山王ノ若キハ少ニシ
テ、已ニ宇内ヲ併吞セントスルノ志ヲ抱キ、且ツ壯年ニ
シテ世界中許多ノ邦國ヲ征服シタルカ如キモ、亦仍ホ
其志ヲ達セントシタルモノナルヘク、羅馬ノ該撒（亦モ）
廣大ノ土地ヲ統一シ、當時已レノ知り得タル所ノ邦土
ハ概ネ之レヲ服從セシメ、幾ント宇内ニ霸タリシヲア
リ、佛蘭西ノ拿破崙一世モ亦非常ノ志望ノ抱キテ、已レ

歐洲ノ全區ヲ縱ニレ威ヲ世界ニ振ハント欲シタルカ
如シト雖モ是等ハ皆實ニ不正ノ志望暴漫ノ事業ニシ
テ十分ニ其目的ヲ達シ其事ヲ成シタル者モ無ク善良
ノ結果ヲ具タル事モナク且ツ若シ右等ノ諸人ニノ姑
ク其志望ヲ遂ゲ得セレムルトモ固ヨリ永ク保存スル
コトヲ得サルヘク縱令之ヲ保存スルコトヲ得ルトス
ルモ亦決シテ守内人民ノ幸福ニ非スレテ大ナル不幸
トナルヘク甚シキ大害ト爲ルヘク吾儕カ今日希望ス
ル所ノ點トハ決シテ相合セサルヘク相一致セサルヘ
キ也

曰ク然ラバ則萬國公法ニ憑ラン乎曰ク未可ナリ夫レ
今日ノ萬國公法ト云フト雖モ其實ハ未ダ之ヲ法ト稱
スルニ足ルヘカラスシテ縱令之ヲ法ト稱スルモ今日
ノ世界ニ在テハ曾テ其法ヲ執行スルノ權利ヲ保有ス
ル者ナキヲ以テ之ヲ今日各國ノ内ニ行ハルカ如キ
法律ト同視スヘカラサルヲハ更ニ疑フヘキモ死ク嚴
ニ之ヲ論スル片ハ未ク之ヲ法ト云フヘカラスシテ若
シ之ヲ法ト爲サハ則死法ナリト云フヘク到底之レノ
ミニ頼テ以テ守内ノ靜寧各國ノ保安ヲ得ルヲ望ム
ニ足ラサル也且ツ又今日ノ實際ヲ觀察スルモ若レ夫

萬國公法ニシテ宇内ノ靜寧各國ノ保安ヲ得ルヲ
能クスヘシト云ハ、則実ニ斯クノ如キノ效驗アラサ
ルノ理ニシテ、而シテ魯西亞ハ同宗ノ民人ヲ救フヲ口
實トシテ土耳其ヲ伐チシニハアラズヤ、斯クノ如キ
伐ツキハ、何ノ國々伐ツヘカラサルモノ、又彼ノフヒ
アラシヤノ國權ヲ犯ス、論ガキアリ、又彼ノフヒ
ランド也サスアトカント等ヲ吞併セシモ亦公法ニ戻
レルニハアラズヤ、又彼ノ普墺ト共ニ波蘭ヲ分取セシ
ノ恃虐ニ非スヤ、英國ハアングロサクソン人種ヲ世界
ニ改扈セシメ、全地ヲ擧ケ之レカ統轄ニ歸セシムハ天
ノ欲スル所ナリトノ口實ヲ以テ、殖民ヲ天下ノ諸方ニ

自由神

送り以テ其土地ヲ蠶食スルアラズヤ、西班牙ハ耶蘇教
ニ改宗セシムルヲ名トシテ印度ヲ征スルニアラズヤ
耶蘇教ノ大旨タル十誡中ニ、汝等必ズ殺傷スルヲ
勿レ、汝等竊盜スルヲ勿レト、若シ夫レ西班牙等ノ國ニ
シテ眞ニ他國ヲ迄耶蘇教ニ改化セシメントスル者ナ
ラハ、何カ故ニ兵ヲ以テ他國ヲ殺傷シ、及ヒ他國ヲ竊掠
スルカ、殺傷竊盜ハ既ニ耶蘇教ノ禁スル所ナリ、耶蘇教
ノ嚴禁スル所ヲ以テ耶蘇教ヲ弘メ、云フ、其忘誕タ
ルモ亦判知スル、其他歐洲各國ノ亞細亞、亞弗利加等
ニ足ル可キナリ、
諸國若クハ諸地ヲ掠取シ、之ヲ蠶食スルモ亦、大概右
ノ類ニ非サルトハ莫ク、古人其カ人ニ加フルニ罪ヲ以
テセント欲スレハ、何ソ名ナキヲ憂ヘント云ヒシト同
一轍、今日ニ在テハ、則人ノ國ヲ伐チ、人ノ國ヲ取ラント

七

自由神

欲スレハ何ソ名ナキニ若カント云フカ如キトハ則天
 下ニ行ハル、所ノ實勢ヲ評スルニ當レルモノナリト
 云フ可ク、殆ント古語ニ在ル所ノ豺狼カ言ヲ設ケテ羊
 子ヲ喰ヒ、獅子カ詞ヲ作驢馬ヲ虐セシ如キモノト異ナ
 ル所アルトナク、更ニ之レヲ一言スレハ、則弱ノ肉ハ強
 ノ食ト爲ルモノハ往々ニシテ然リト云フベシ、豈マク
 甚シカラスヤ否、今日ノ萬國公法ナル者ハ、未ダ之ヲ賴
 ムニ足ラサル也、未タ大ナル益ヲ爲スノカナキ也、
 曰ク、然ラハ、則チ世界中ニ一大裁判所ヲ設置シ、今日世
 界一所謂萬國公法ヲ實施執行セシム可キ乎、曰ク、未可

ナリ、吾儕ハ今日ノ世間ニ所謂萬國公法ヲ以テ世界邦
 國間ノ萬端ノ法トスルコトヲ得サル也、吾儕ハ今日ノ万
 國公法ヲ以テ足レリト爲ルコト能ハサルナリ、何トナレ
 バ、則今日ノ萬國公法ハ世界各國間ノ萬般ノ事件ニ涉
 レル完全ノ憲法トスルニ足ラサル所アレハナリ、各國
 間及ビ各人ノ幸福安全ヲ十分ニスルヲ得サレハ也、
 曰ク、然ラハ、則チ國勢ノ平衡ナルモノヲ頼ムヘキ乎、曰
 ク、不可ナリ、夫レ國勢ノ平衡ナルモノハ、今日ニ在テ多
 少ノ便益ヲ爲スコトナキニアラスト、雖モ、然カモ頗ル偶
 然ノ便益ニシテ、ソノ信據依頼スヘカラサルコト恰モ薄

水ヲ踐ム者ノ如ク一タヒ変スル所アレハ則復タ其便
 益效利ヲ失スルニ至ルヘク且其所謂便益ナル者モ未
 タ十分完全ナルニ非スレテ曾テ満足スヘキモノニ非
 レハ到底今日ノ望ム所ニ適スルコト能ハサル也
 曰ク今日ニ在テ世界ノ如斯暴亂ヲ極メ宇内ノ治平ヲ
 得サルト云フ者ハ其主ヲ關係スル所歐洲ノ亞細亞ヲ
 壓倒スルニアレハ此勢ヲ防制スルノ道ハ亞細亞連合
 ノ策ヲ立ツルニ在リトスル乎曰ク未可ナリ夫レ亞細
 亞ノ聯合ハ其事ノ全ク利ナシト云フニアラスレテ或
 ハ之レヲ一個ノ有益事業ト云フヘク今日ニ於テ之ヲ

行フモ亦猶ホ多少ノ便利ヲ見ルコトナキニ非ザルベシ
 ト雖モ畢竟是レ亞細亞ニ在テ歐洲ノ橫暴ヲ防禦スル
 一時ハ姑息的事タルニ過キスレテ其事狭小ニ屬シ其
 時モ亦頗ル遲晩ヲ免カルコト能ハサル也乞フ者ヨ亞
 細亞ハ元來古ク開化ヲ得其土地モ亦廣大ナリト雖モ
 土地モ亦世界ノ廣キニ比スルキハ則其半ニ滿ツルコ
 能ハス開化昌盛モ亦今日ニ在テハ歐米ノ勢ニ優ルト
 爲サス而シテ今日ツ試ニ當時ノ景状ヲ觀察スレハ印
 度ハ既ニ英國ニ掠セラレ安南ハ既ニ佛國ニ掠セラレ
 爪哇ハ則葡萄牙ノ掠スル所ト爲リ呂宋ハ則西班牙ノ

掠スル所ト爲リ、波斯土耳其等モ亦制ヲ歐洲人ニ受ケ、
支那モ亦未タ其國ノ内地ヲ攘奪セラル、ニ至ラスト
雖モ、便良ノ港灣等ハ則已ニ權ヲ歐人ニ奪ハレ、幾ント
其精英ヲ吸取セラル、ノ勢アルヲ免カレス、西北ノ
境界ニ就テモ亦往々魯國等ノ爲メニ危難困厄ヲ貧受
セシメラル、ナキヲ得ス、朝鮮モ亦魯國ノ爲メニ動モ
ス、ハ蠶食併呑セラレントスルノ勢アリ、之ヲ要スル
ニ、亞細亞諸國ハ今日既ニ歐洲各國ノ爲メニ併兼翦覆
セラレ、者尠カラステ、彼レカ爲メニ權ヲ奪ハレ、其
全州ニ就テ之ヲ論スレハ、既已ニ獨立ノ實勢ヲ喪失ス

ル者甚タ多クレバ、則今日ニ於テ始テ亞細亞ノ聯合ヲ
爲スヲ得レハ、多少ノ益ナキニ非ラスト、雖モ其勢力
ハ確カニ歐洲ノ強盛ニ匹敵シ得ルヲ保證シ難カル
ヘク、十分ニ歐洲ノ大勢ヲ防禦シ得ルヲ保證シ難カ
ルヘク、且ツ亞細亞ノ全洲ハ土境徒ニ曠濶ニシテ國々
相遠隔シ、互ニ往來連絡スルニ便ナラサルノ憂ヒアリ
テ、歐洲ノ各國互ニ相連結シ相聲接スルカ如キノ便ア
ルヲナケレハ、則亞細亞ノ連合ハ之ヲ惡シトシテ全ク
排斥スルノ理ハ無カルヘシト、雖モ之ヲ以テ今日宇内
ノ暴亂ヲ救正シ世界ノ治平ヲ保固スルニ足ルノ功能

十
日
書
藏
年

アルヘントハ云ヒ難キナリ之ニ頼テ以テ全ク亞細亞
 獨立ノ權利ヲ保護スルニ足ルヘント爲ルヲ能ハサル
 ナリ之ヲ信シテ以テ真ニ東洋ノ幸福ヲ保持スルニ足
 ルヘント爲ルヲ得サルナリ況ンヤ今日世界ノ暴亂
 ハ獨リ歐洲ノ亞細亞ニ向フ所ノ關係タルノミナラス
 彼ノ亞非利加洲モ亦概ネ歐洲人ノ有スル所トナリ阿
 太利亞洲モ亦全ク歐洲人ノ棲居スル所ト爲リ亞米利
 加州モ亦早ニ白哲人種ノ巢窟ト爲リノサントウイヅチ
 如キハ一千七
 百七十八年以來頗ル歐洲人種ヲ増加シ島民ノ種族ヲ
 失フヲ五十年間ヲ通シテ毎年大凡百餘ノ八ヲ減レ初
 メニ三四十万人ノ人口アリシ者千八百二十三年之ヲ概
 ニ至テ只僅カニ十四万人口ヲ殘シタリト云ヘリ之ヲ概

スルニ歐洲人種ノ業既ニ世界各國ニ蔓布スルヲ實ニ
 甚シク天下ニ其威又逞カスレハ則今ニシテ亞細亞ノ
 一洲ヲ連合スルカ如キ結果シテ姑息ノ事タルヲ免カ
 ルヲ能ハサルヘク若シ又亞細亞ノ連合ヲ以テ姑ク
 歐洲ノ暴亂ヲ干禦スルニ足ルヘント爲ルモ亞細亞ノ
 連合ハ獨リ亞細亞ノミヲ固ムルニ過キスシテ未タ世
 界ノ亂勢ヲ救正シ宇内ノ治平ヲ致スニ足ラサルヘケ
 レハ我輩仁ヲ好ミ愛ヲ尚フノ本意ヲ達貫セサルノミ
 ナラス之ニヨツテ亞細亞ハ自ラ固ント謂ヒナカラ猶
 ホモ野蠻暴亂ノ世界中ニ介在セサルヲ得スレテ常ニ

多少ノ弊害ヲ感スヘク困迫ヲ受クヘク未タ安心寧息
スルヲ得ルノ期ナカルヘシ豈之ヲ以テ足レリト爲ル
トヲ得シ哉

曰ク然ラハ則如何シテ可トラン乎曰ク右ノ如キ宇内
ノ暴亂ヲ救正シ世界ノ治平ヲ致スヘキモノハ萬國共
議政府ヲ設ケ宇内無上憲法ヲ立ツルニ在リ是レ實ニ
公明正大最モ順應ノ事ニシテ無理タラス無効タラス
不倫タラス危殆ナラス狹少ナラス能ク今日ノ如キ宇
内ノ暴亂ヲ救正シ以テ世界ノ治平ヲ致スニ足ル可ク
更ニ最モ自由幸福ヲ享受スルニ益アリテ善美ノ結果

ヲ得可レ豈クレ緊要ナラスヤ豈ツレ希望セサルヲ得
シヤ宜シク應ニ必身ノカヲ尽レテ之ヲ圖ル可キ也

第二 無上政法ノ意義及ヒ其緊要ナル情理并

ニ其利徳ヲ論ス

萬國共議政府ヲ設ケ宇内無上憲法ヲ立ツ可キノ大旨
ハ既ニ以右ニ述フルカ如ク其實ニ已ム可ラサルハ則
之ヲ知ルト虽モ前章ニ述フル所ノ如キハ只其萬國共
議政府ヲ設ケ宇内無上憲法ヲ立ツ可シト云フノ大端
ヲ言ヘルノミニシテ其之ヲ設立ス可キ詳細ノ情理ト
之ヲ設立スルニ就テ生スル所ノ利益效用ニ至テハ未

夕卷ク陳辨スルニ非サル也。吾儕ハ今復タ焉ヲ論セサルヲ得ンヤ。

夫レ萬國共議政府ヲ設ケ、宇内無上憲法ヲ立ツルハ、是ヲ今日各處ニ行ハル、國家ノ理ヲ推シテ更ニ之ヲ進ムル所以ノモノト云フ可キナリ。曰ク、何ソ耶夫レ今日ニ在テ國家ヲ建ツルモノハ、今日ノ人間タル者各私心アリ、私慾アリテ、今時ニ於テハ他ニ憚ルモノナキハ、邪惡ノ業ヲ爲スモノ多ク、又其人々各々別離シテ獨自ニ已レガ權利ヲ保護シ、他人ノ侵害ヲ防禦セントスルハ、頗ル煩ハレクシテ且ツ十分ニ權利自由ヲ保全シ

難ク多量ノ幸福ヲ享クル能ハサルヲ以テ爲ノニ一ノ政府ヲ設置シ、法律ヲ立定シ、乃チ各人ノ權利自由ヲ保護セシメ、以テ最大ノ幸福ヲ享受セントスルモノナルヘシツレ然リ、民人已ニ斯ノ如キノ情理ヲ以テ國家ヲ立ツ、國家既ニ立テ各々相對スルハ、則亦其法アラサルヘテシヤ蓋シ、民人未タ國家ナキハ、則國家ナキカ爲ノニ國家ヲ立ツ、國家既ニ立テ各々相對シ、相立ツニ至レハ、則今其ノ各々ノ國家ハ猶ホ初メノ未タ國家ナキハ、各々ノ民人ニ於ケルカ如ク、民人ヲ合シテ一ノ國家ヲ結ヘルニ準シ、國家ヲ以テ更ニ世界ノ一大結合

一、凡ソ國家ニ法律ヲ立テ、各民ヲ保護スルニ準
 シ、更ニ世界ノ大憲法ヲ立テ、各國ヲ保護セサルヲ得
 レヤ、蓋シ世ニ國家ヲ建テ法律ヲ立ツル所ノモノハ、民
 人タル者各私心アリ私欲アリテ、今日ニ在テハ道德猶
 ホ薄ク、他ニ憚ルモノナキトキハ、則害悪ヲ爲ス者多キ
 ヲ以テ、國法ヲ立テサルヲ得ズ、人々自ラ他人ノ侵害ヲ
 モ扞禦セントスレハ、頗ル煩ハシクシテ多量ノ幸福ヲ
 得サルニ因ルト云フニ非スヤ、然リ而シテ國家ハ、民人
 ヨリ起リ、民人ヲ合シテ成ルモノナレハ、則一國ノ宇内
 ニ在テ他各國ニ對スレハ、一民ノ一地ニ在テ他各民ニ

對スルニ同シク、國家モ亦必ス私心アリ私欲アリテ、今
 日ニ在テハ他ニ忌憚スルモノナケレハ、則暴惡邪曲ノ
 所為ナキヲ保ツコト能ハサルヘク、而シテ國々獨自ニ已
 レノ國權ヲ守衛シ、他國ノ寇患ヲモ防禦セントスレハ、
 則一人ノ孤立スル時ノ結果ト同シク、頗ル煩ハシクシ
 テ且ツ十分ニ權利自由ヲ保全シ難ク、以テ最大最多ノ
 幸福ヲ得ヘカラサルヘケレハ也、蓋シ宇内ノ政法ナキ
 キハ、則世界中ノ各小邦國モ亦十分ニ其趣意ヲ達貫シ
 了セサルコトアルヘク、國家未タ十分ニ安全鞏固ノ地位
 ニハ至リ進ムヘカラサルヘシ、只此一事克ク行ハレテ

而後各小邦國內ノ民人ガ其國ノ政法能ク行ハレテ而
後ニ安全ヲ得ルカ如ク、宇内ノ各國モ亦安全ヲ得ルニ
至ルヘキナリ、無上政法ノ理モ亦國家ノ理ニ似スヤ、故
ニ曰ク、無上政法ハ則國家ノ道理ヲ推シテ更ニ之ヲ進
ムル所以ノモノトモ云フヘキ也ト、古語ニ云ク、國ニシ
テ法律立タサレハ、自由自主ノ權モ亦隨テ立タサル也
ト、此語豈ニ更ニ宇内ニ轉用スヘカラサラン哉、吾儕ハ
則云ハン、世界ニシテ法律立タサレハ、則自由自主ノ國
權モ亦隨テ立タサル也ト、人若シ之ヲ信セスト云ハ、
則試ニ坤輿ノ地圖ヲ一覽シ古今ノ歴史ヲ一閱セヨ、吾

自由

儕ノ嘆ク、今日ノ實勢ヲ一觀シテ之ヲ諒知スヘキナリ、
ナリ、否ナ萬國連合會社ヲ設立スヘキ、則古來
ノ経跡ト今日ノ實勢ヲ一觀シテ之ヲ諒知スヘキナリ、
又今少シク論法ヲ更シテ之ヲ言フニ、凡ノ吾々民人々
ルモノニシテ民權ヲ保全セント欲スレハ、便チ自主ノ
元氣ト國家ノ憲法トヲ以テセサルハアラスシテ、之ヲ
譬ヘハ家屋ノ堅固ヲ望ムニハ善良ノ材木ト良好ノ建
築術トニ由ラサルヘカラサルカ猶クナルヘク、若夫民
人ニシテ自主ノ元氣ナキハ、則政暴虐トナルアリ、若
夫國家ニシテ憲法ナキハ、則國紊亂スルヲモ亦之ヲ

十五
三三
自由

譬へハ材木ニシテ善良ナラサレハ、則家屋ハ内ヨリ其
 害ヲ生スヘク、建築法ニシテ善良ナラサレハ、則外ヨリ
 其患ヲ受クヘキカ、猶クナルヘク、若夫國家ニシテ憲法
 アリト雖、民人ニシテ自主ノ元氣アラサルキハ、則國
 内ヨリ其弊ヲ生スヘク、人民ニシテ自主ノ元氣アリト
 雖、國家ニシテ憲法立サルハ、則外ヨリ其患ヲ招クヘ
 キトモ亦之ヲ譬へハ、築造ノ法ハ良善ナリト雖、材木
 ニシテ善良ナラサルキハ、則屋中ヨリ其害ヲ發シ、材木ハ
 善良ナリト雖、築造ノ法ニシテ善良ナラサルキハ、則外
 ヨリ其患ヲ來スヘキカ、猶クナルヘシ、是レ民權ノ理ノ

上ニ於テ實ニ當然ナル所ノモノナリ、而シテ國ハ則民
 ヲ合シテ成ル所ニシテ、國權ノ理ハ其猶ホ民權ノ理ト
 同レカ、ルヘキモノナレハ、則國權ノ保全セント欲スル
 モ亦豈ニ民權ノ上ニ就テ所謂自主ト法度ノ二者ヲ要
 セサルト云フアラシ哉、必スヤ應ニ一國自主ノ元氣ト
 宇内ノ憲法トノ二者ヲ以テ保護守衛セサルヲ得サル
 ヘキナリ、若夫國家ニシテ自主ノ元氣ナケレハ、則内強
 キヲ能ハサルナリ、宇内ノ憲法ナキハ、則外安キヲ能
 ハサルナリ、且ツヤ宇内ノ憲法アリト雖、邦國ニシテ
 自主ノ元氣ナキハ、則憂内ヨリ起リ、自主ノ元氣アリ

ト雖モ、宇内ノ憲法ナキキハ、則患外ヨリ來ルヘシ、二者俱ニ備ハリテ然後ニ國權安全ナルヘキナリコレモ亦萬國共議政府ヲ設置シ、宇内無上憲法ヲ立定スヘキ所以ヲ證スルノ一也、

夫人ハ合同ノ性ト獨殊ノ両質ヲ有ツモノ也、故ニ合同ノ性ニ就テハ、最モ交社ノ道ヲ廣クセサルヘカラサルナリ、獨殊ノ性ニ就テハ、尤モ國家ヲモ小分セサルヘカラサルナリ、而シテ最モ交社ノ道ヲ廣クシテ合同ノ性ヲ尽ストハ、無上政法ヲ設立スルヨリ越エタルハ、莫カルヘキ、最モ國家ヲモ小分シテ獨殊ヲ尽サシトスルニ

於テモ亦我カ無上政法ヲ設立スルヲ以テ最モ適宜ノ便路ト爲スヘシ、然レハ則世界最大ノ政法ハ、人間ノ本性ヨリ推シ來リテ之ヲ論スルモ亦緊要ニシテ闕如ニ附スヘカラサルヲ知ルヘシ、

夫レ民權ハ國權ト關係ヲ相爲スモノニシテ、民權ハ國權アツテ然後安ク、國權鞏固ナラサレハ則民權モ亦安キヲ能ハサルナリ、而シテ國權ハ無上政法アツテ然後安ク、無上政法アラサレハ則危キヲ免カレサルナリ、然ラハ則無上政法ハ其起意畢竟國權ヲ保護スルニ出ツルト雖モ、國權ヲ守ルハ則民權ヲ護ル所以ナレハ、則

無上政法ハ民權ニ於テ大ニ關スル所アリト謂ハサル
 ヲ得サルナリ民權ヲ重シスル者ハ民權ノ爲ノニ何ソ
 無上政法ヲ設立セサルヘケンヤ是レモ亦無上政法ヲ
 設立スヘキ一理由ナリ
 凡ソ組織ノ單純ニシテ構造ノ粗糙ナル者ハ稍疾病災
 害ニ堪エ易シト雖モ組織ノ複雜ニシテ構造ノ緻密ナ
 ルモノハ疾病困厄ニ耐エ難キト天地ノ常理ニシテ極
 ノテ喪畧輕小ナル禽獸蟲魚ノ如キハ縱令少小ノ負傷
 アリト雖モ未タ大ナル害ヲ見サルヘキモ人類ノ如キ
 ニ至テハ其組織複雜繁密ナルヲ以テ右ノ禽獸等ノレ

ハ則未タ大ナル弊害ヲ感セサルヘキ場合ニ於テモ亦
 以テ大ナル弊害ヲ覺ユヘク或人カ衛生ノ上ニ於テ人
 ヲ戒ムル為メニ發シタル諺ニ人身ハ靈敏ナル時計ノ
 如シ一塵ノ失調アレハ全身其弊ヲ受クヘシト云ヒシ
 如ク些細ナル變動ヲ受クルモ亦猶ホ往々ニシテ死ニ
 至ル等ノトアルニ同シク宇内ノ邦國ニ於テモ古昔文
 明ノ猶淺ク開化ノ猶薄ク総テ國家ノ事物未タ爾カク
 繁雜ニ至レルトナク社會ノ構造モ亦粗畧ナル時代ニ
 在テハ縱令少小ノ變動ヲ受タルモ較其弊害ヲ感スル
 ト甚ク且ツ之ヲ支持スルトモ亦自ラ易カルヘシト云

モ世益進テ天下ノ邦國愈其組織ヲ備足シ事物ノ繁雜
ヲ極ムルニ及フキハ則些細ナル變動侵犯ヲ受クルモ
亦自ラ其弊ヲ覺ユルヲ多ク且感シ易ク又其死生存亡
ノ變動ヲ支持スルニ於テハ組織ノ單純ナル古代ノ邦
國ニ及ハサル所アルヘシ當今ニ在テモ名号等ノ如キ
事物少ク開化淺薄ナル處ハ
弊シト無法無政ト雖モ亦其弊ヲ覺ユル下猶輕キカ如
シト魚モ若夫其國佛國等ノ如キ國々ニ於テ數日ノ間
モ無法無政ノ時アラシメハ其弊害ヲ故ニ旧來ニ在テ
生スルヲ覺ユルヲ蓋シ莫大ナルヘシ
ハ萬國ノ共議政府ナク宇内ノ無上憲法ナキモ猶ホ未
タ患シキ患害ヲ見ルヲナカリシモ今日ヨリ以後ニ於
テハ決シテ前日ト同一ナルヲ能ハサルヘク宇内各邦

ノ開明ニ赴クニ隨テ轉テ憂患ヲ醸スル及スヘシ故ニ
今日ニ在テハ則宇内ノ聯合會社ヲ設置シ無上憲法ヲ
立定セサルヘカラサルナリ況ンヤ今日ニ至ル迄モ業
既ニ大且多キ弊害ヲ證セルモノヲヤ
且夫試ニ之カ利徳ノ一二ヲ舉ン乎今若シ萬國共議政
府ヲ設置シ無上憲法ヲ立定スルニ及ンテ天下ノ邦國
外寇ノ憂少ク縱ヒ時トシテ外國ト相關スルノ困難ア
ルモ亦能ク萬國共議政府ノ保護ヲ受クルヲ得テ到
底大ヒナル外患ノ憂慮ナキニ至レハ就テ天下ノ各國
皆自由ニ其國ヲ小分スルヲ得ヘシ是レ一ノ大利益ナ

リ蓋シ今日ノ天下ニ於テ當時文明ニ在リ當時ノ人間
 ノ工夫ヲ以テスレハ凡ソ國家ヲ立テ、而シテ其政公平
 ヲ得ルノ道ハ一國ノ公議ニ循テ其政ヲ為スヨリ越ヘ
 タルハ莫クシテ、而シテ公議常ニ全數ノ一致ヲ得萬人
 舉ナ一ノ如クナレハ則猶ホ可ナリト雖モ、人心ノ同シ
 カラサルハ其面ノ如シト云ヘルヲハ決シテ吾人ヲ欺
 カサルノ謗ニシテ萬人アリテ而シテ萬人萬事ニ一致ス
 ルカ如キヲハ望テ常ニ得サルヘク、古今ノ實跡經驗ニ
 於テモ亦其然ルヲ得サルヲ知レハ、今日ノ所謂公議
 輿論ナル者ハ只ニ半數以上ノ公議輿論ト云フマテニ

メ之ニ及シタル半數以下ノ一方ハ則半數以上ノ一方
 ニ壓セラレ、ヲ免カル、ト無ク、多少ノ痛苦ヲ受ケサ
 ルヲ得サル筈ナレハ、所謂公議輿論ナルモノモ亦其名
 ノ美ハシキト併行セサルヲ多クシテ未タ至レリ盡セ
 リトスルヲ得サレハ、真ニ開進シテ至レリ盡セル所
 以ハ、乃チ全ク國家ノ制ヲ釋キ、人々自主自由ニ獨立ス
 ルニコソアルヘケレト、今日ノ勢タルヤ、未タ一時ニシ
 テ遽然國家ヲ解廢スルヲ得サルヘケレハ、只其漸ク國
 家ヲ釈クノ域ニ至ルハ、今先ツ國家ヲ小ニスルヨリセ
 サルヲ得サルヘク、且又國家ヲ釈クノ目的ヲ以テスル

自由権論
ニアラサルモ、亦其國家ヲ小ニスルルハ、則國家ノ大ナル
ルキヨリハ少シニテモ自由ヲ享クルニ適スヘク、國タ
ル者ノ勢力減少スヘキヲ以テ、國タルモノ、管束ヲ受
クルモ亦減少スヘク、公論ノ上ヨリ之ヲ云フモ、公論少
シニテモ全數ノ一致ヲ得易ク、相杆格スルノ憂少ナキ
ニ至ルヘキナリ。何トナレハ、則今若シ全數ヲ二人トス
ルルハ、何レノ人ト雖モ唯財力ニ一人ノ同意ヲ以テ而
メ全數ノ一致ニ至ルヘケレモ、若夫全數百人ナルルハニ
於テハ、孰レノ人モ九十九人ノ同意ヲ收ムルニアラサ
レハ全數ノ一致ニ至リ難ク、而シテ一人ノ同意ヲ收ム

ルハ九十九人ノ同意ヲ得ルヨリ易キヲ理ノ當ニ然ル
ヘキ所ナレハ、則國小ナレハ國ノ大ナルヨリハ人々ノ
國ノ為メニ制限セラレ、一自ラ減少ニ歸スヘク、又人
間カ愛惡怨憐ノ四情ハ、其本心ニ根シテ出ツルト雖モ、
物ニ接シ事ニ當リテ發動スル者ナレハ、土地相接近シ
交際常ニ繁密ナル所ノモノハ、土地相遠隔シ交際常ニ
繁密ナル所ノ者ヨリハ其情自ラ相近フシテ同論同議
ヲ得易カルヘク、土地相遠隔シ交際常ニ稀疎ナル所ノ
者ハ土地相接近シ交際常ニ繁密ナル所ノ者ヨリ自ラ
厥情ヲ殊異スルヲ多クメ、隨テ同論同議ヲ得難キヲモ

亦理ノ當然ト云フヘク、而ノ國大ナレハ、則其中ニハ土地相遠隔シ、交際常ニ繁密ナラサル者多クシテ、乃チ同論同議ヲ得ルニ難ク、國小ナレハ、則其國人ハ土地相接、近シ、交際常ニ繁密ナルモノ、聚合タル者トナルカ故ニ、乃チ同論同議ヲ得易ク、他ノ為ニ抑制セラレ、自ラ輕少ニ歸スヘク、少シニテモ自由ヲ得ルニ適合スヘケレハ也、止ニ然ルノミナラス、若シ又愈國土ノ小分スルニ至レハ、則其度ニ隨テ、益々民ノ自由ヲ進メ、今日天下ノ各邦ニ用ユルカ如キ代議政体ヲ一変シテ、之ヲ直與政體ニ改ムルヲ得ヘキナリ、國ヲ小ニスルハ

豈吾人ノ為ニ幸福トリト為サ、ルヘケンヤ、故ニ宇内ノ政法ヲ設立シテ、以テ天下ノ邦國ヲ小分スルヲ得ルニ至レハ、實ニ一個ノ大利徳ト謂ハサルヲ得サル也、況ンヤ共議政法ノ功ニ依テ、遂ニ國ヲ解クニ至ルノ進歩ヲ得、今日ノ齟齬タル政治法律ノ如キハ、便チ其生ヲ卒ヘテ、人間能ク真成ノ自由自主ヲ得、純乎タル至美世界ニ訴樂スルヲ得ルニ至レハ、之ヲ最大利徳ト云ハサラント欲スルモ得ン乎、又萬國共議政府ヲ設置シ、宇内無上憲法ヲ立定スル以上、天下各國皆其兵備ヲ減少スルヲ得ヘシタトヘ

其國ノ形勢ニ隨テ、國內ノ爲メニスル軍兵ノ如キハ、
多少之ヲ備フルヲモアルヘシト雖モ、外國ノ爲メニ備
フルニ係ルモノハ、如キハ、實ニ些少ノ備ヲ要スルカ、若
クハ些少ノ備ヲモ要セヌメ、其極竟ニハ、全ク之ヲ廢止
スルニ至ルヲ得ヘシ、是レモ亦一大利益ニアラスヤ
蓋シ今日地球ノ各國ヲ見ルニ、凡ソ何レノ國ト雖、海
陸軍ノ費用ノ如キハ、實ニ夥シク、民人ノ爲メニ多少ノ
害失ヲ爲サスト云フヲナケレハ、今夫國家ニシテ軍兵
ヲ減少スレバ、隨テ其福祉ヲ増スヘキコト決シテ疑
ナカサルヘシ、加之若夫外寇ノ爲メニ備フル所ノ軍兵ヲ

自中校裁本

廢止シ若クハ減少シテ、常ニ外寇ノ爲メニ軍兵要スル
コトナキ兵至ル飲、若シハ軍兵ヲ要スルコト少キニ至
レハ、則國家ニ縱令壓制暴虐ノ治者アリト雖モ、名ヲ外
患ニ藉リテ以テ稅斂ヲ増ス等ノ惡弊ヲ生スルコトナ
キニ至リ、或ハ今日各國ニ行フ所ノ如キ外交政略等ノ
隱穢不正ナルヲノ如キハ、亦大ニ變易スル所アルヘク
且ツ人間ヲシテ殺伐ノ氣風ヲ除滅シ、和合愛敬ノ良美
ナル境ニ進マシメ、其品等ヲ上昇セシムルニ至ルヘシ、
是レモ亦一大洪益ト謂ハサルヘケンヤ、
其他萬國共議政府ヲ設置シ、宇内無上憲法ヲ立定スレ

廿三
自由裁裁

ハ、文物諸種ノ事件ヲ創始スルコトヲ得ヘク、因テ生スル所ノ利益ハ頗ル多大ナルヘク、今日右ノ設立ナキ間ハ、未タ吾人カ心思ニ其事ノ全昧ヲ浮ヘ來ラサル事件ヲモ或ハ其便ニ隨テ興起スヘク、今日ノ文明ニ在テハ未タ切要トセサルコトヲモ、右ノ設立アリテ萬國ノ開化更ニ進歩スルルハ、隨テ宇内政法ノ使用ヲ覺ユルニ至ルヘシ、吾人ハ何爲レソ、早ク此ノ一大事件ヲ舉行シ能ク其功ヲ奏マルコトヲ務メサルヘケンヤ、吾儕人間ニシテ克ク此一事ヲ遂クルニアラスシハ、未タ天地ニ愧ツルナキモノト謂フヘカラレル也、未タ人間ノ本分ヲ

盡レタリト謂フヘカラサル也、未タ十分ノ自由安樂幸福福利ヲ享クル能ハサルヘキ也、

第三、吾人ノ難問ニ答ヘ人ノ疑問ヲ辨シ以テ本

意ヲ憲章ス

或人ノ曰ク、夫レ人間ハ最モ獨立自主ヲ尊フ者ナリ、故ニ人民ニハ益々自衛ノ氣象ヲ進メシメ、愈々自主ノ精神ヲ長セシムルコトヲコソ謀ルヘケレ、自主自由ノ道ニ適合セサルコトハ決シテ取ラサルヘキ也、然ラハ則吾人ハ今日ニ於テモ亦愈々文明ノ歩ヲ進メ、至ル所ハ國家ノ制ヲモ廢スルニ届ラシメサルヘカラサル也、然ルニ

今世界ニ一種ノ政法ヲ設立スルハ、國家ノ上ニ於テ更ニ國家ヲ置クニ侔シキモノナレハ、則是レ人民カ自主獨立ノ一步ヲ退カシムル所以ナルヘク、寧ロ之ヲ設立セサル^{コト}ノ煩ナク且ツ自由ニ近キニ若カンヤト然リト雖^レ世界ニ政法ヲ設立スル^{コト}ハ、早ク各民ノ自主ヲ長進セシムル所以ノモノニシテ、乃チ國家ノ解廢ヲ速カナラシムル捷徑ナルヘク、且ツ世界ノ政法ヲ設立スル^{コト}ハ、天下ノ各民ヲ以テ直ニ之ヲ為スモノニ非スレテ、天下ノ各國ヲ以テ之ヲ為スモノナレハ、天下國チキニ至レハ則^レ已ムヲ得ヘシト雖^レ天下ニ國アル以上ハ已

ムヲ得ヘカラサルモノナルヘシ、試ニ觀焉、今日ノ世界ニ在テハ、縱令文明ト稱スル邦國ニ在テモ、未タ國ヲ釋ク^{コト}ヲ得サルノミナラス、國ヲ小分スル^{コト}モ亦外國ノ爲ノニ憚リテ之ヲ得サルニ非スヤ、各州相別レテ全ク獨立スルヲ可トスヘキ外ニ在テモ亦猶ホ外國ニ對シ或ハ合衆トナリ、或ハ連邦ト為レルニ非スヤ、其レ然リ凡ソ是等ハ則主ラ世界ノ治平ニ歸セス、宇内ノ真文ニ歸セサルニ是レ係ルモノナリ、故ニ之ヲ推シテ考フル^ルハ、世界ノ勢今日ノ如クナル^ルハ、天下ノ各國ハ縱ヒ今ヨリ更ニ其國內ノミ^ノ文明ヲ進ムルモ、亦其度ニ隨テ

國家ノ法制ヲ弛ノ若クハ之ヲ解クヲ得ルニ至ラサル
ヘシ然リト雖モ若夫レ世界ノ政法ヲ設立スルハ實
ニ宇内ノ勢ヲ改良ニシテ天下ノ各國ヲシテ外國ノ為
ノニ憂慮スルノ箇條ヲ減少セシムヘキカ故ニ孰レモ
其國ヲ小令スルヲ得ヘク若クハ其國ヲ解廢セント
スルモ亦其國ノ文化ノ度ニ隨ヒ其國人民ノ意ニ循テ
之ヲ得ヘク國ナクシテ居ル所ノ民人ト雖モ亦多少ハ
無上政法ノ保護ヲ受ケテ決シテ今日ノ如キ多大ノ憂
アラサルヘシ然ラハ則世界ニ政法ヲ設立スルヲハ決
レテ天下民人ノ自主自由ト背違スルモノニ非スシテ

現在一於テモ自由ノ為メニ益ヲ為シ後來ニ就テモ人
民ヲシテ早ク自由ノ頂上ニ登ルノ便路ヲ與フル所以
ナルヘク都テ人民ヲシテ自由ノ真域ニ臻ラシムルノ
楷梯トナルヘシ之ヲ要スルニ天下ノ人民ハ今日ノ世
ノ勢ヲ以テ此終ニ自由ノ真域ニ届ルヲハ蓋シ得難キ
ナク今日ノ人民ヲシテ真成ノ自由境裏ニ届ラシムル
ニハ先ノ其間ニ無上政法ト云ヘル一ノ楷梯ヲ要セサ
ルヲ得サルヘキ也
又或人ノ曰ク世界ニ無上政法ヲ設立スルハ其事美ナ
ルカ如シト雖モ若夫之ヲ設立シテ而シテ之ヲ保持維

存スルニハ所謂最大ノ政府ニ許多ノ權利ト勢力ヲ與
ヘサルヲ得サルヘク之ヲ與ヘサレハ則保存スルヲ能
ハサルヘシ故ニ之ヲ設立スルモ壓制ノ弊ナカラント
欲シテ而シテ初メヨリ許多ノ權勢ヲ附與セサレハ則
保存スルヲ能ハヌシテ以テ廢絶スヘク廢絶スルヲナ
カラシメント欲シテ許多ノ權勢ヲ附與スレハ則世界
ノ大政府ニ於テ却テ自ラ暴威ヲ振ヒ天下ノ各國ニ對
シテ壓制ヲ施スニ至ルノ憂アルヘシ而シテ此憂モ亦
頗ル大ナルモノナリ然レハ則寧ロ初メヨリ之ヲ設立
セサルノ安キニ若クンヤト此難問モ亦理アルカ如シ

自由主義

ト雖モ然カモ吾儕カ議論ノ深意ニ通曉セサルモノト
云フヘシ蓋シ吾儕ノ世界最大政法ヲ設立セント欲ス
ルモノハ允ニ文明ノ心ヲ以テスルモノナリ野蛮ノ心
ヲ以テスルニ非サルナリ和平ヲ以テ之ヲ為サント欲
スルモノナリ暴亂ヲ以テ之ヲ為サント欲スルモノニ
非サルナリ且ツ我カ共議政府ハ畢竟天下ノ邦國ヲ以
テ織成スルモノニシテ而シテ邦國ハ人間ノ相聚リ衆カ
ノ相合スル所ナルカ故ニ其重大ナルヲ負ニ一民人
ニ勝リ隨テ道德智識ノ二者ヲ保有スルヲモ亦一民人
ニ勝ルヘク其上ニ政法ヲ要スルヲハ較一民人ヨリ輕

廿七 自由主義

少ナルヘキヲ以テ共議政府ナルモノハ最モ簡易ノ方
 法ヲ以テ立ツルヲ得ヘク最モ寛裕ノ制度ヲ以テ可
 ナリト為スヘク己ニ之ヲ設立スルト雖モ決シテ之ニ
 非常強大ノ勢カヲ授クルヲナク只タ相當ノ權利ヲ與
 ヘ務テ正理ヲ以テ事ヲ行ハシメ正理ヲ以テ各國ヲ服
 セシメ其已ムヲ得サル時ノミ各國ノ公議ニヨリ非常
 ノ所置ヲ為スノ意ヲ以テ之ヲ行フヲ得ヘク此意ヲ以
 テ之ヲ行フヲ能ハスト云ハ、是レ則吾儕ノ所謂無上
 政法ハ未タ之ヲ設立スルヲ能ハサルモノナリ然リト
 雖モ吾儕ハ自ラ先ンシテ天下ヲ化シ之ヲ為シ之ヲ行

ハント欲スルモノナリ既ニ吾儕ノ如キノ意ヲ以テ吾
 儕カ所謂無上政法ヲ設立スレハ則非常ノ勢カヲ授與
 スルヲナク只タ相當ノ權限ヲ附與シテ而シテ之ヲ保
 存スルヲ得ルモノ即チ是レ吾人カ望ム所ノモノナ
 リ如此ニシテ保存スルヲ得サル所ノモノハ則吾儕
 カ初メヨリ望マサル所ノモノナリ豈ニ何ソ之ヲ設立
 シテ保存スヘカラサルヲアラシヤ之ヲ保存シテ壓
 制ヲ見ルヘキヲアランヤ所以ニ言ク或人ノ難問モ亦
 理アルニ似タリト雖モ然カモ吾儕カ議論ノ真意深義
 ニ貫徹セスト

其他又曰ク、天下ノ邦國ハ各々大小強弱ノ差異アリト
 雖モ之ヲ概スルニ、邦國ハ己ニ大且強ナルモノニシテ
 許多ノ強カアル筈ナレハ、宇内ニ最大ノ政法ヲ設立ス
 ルトモ、皆克ク之ニ服従スルコトナク、之ニ反スルコト多ク
 シテ有レ、凡無キカ如クナルヘシト、此一説ノ如キハ上
 文ノ論解中ニ於テ粗ホ其答辯ニ當レルモノアリト雖
 モ、今復タ之ヲ一言スヘシ、夫レ國如何ニ強大ナリト雖
 モ、國ニシテ強大ナリト云ヘハ、則獨リ一國ノミニ限テ
 強大ナルノ理ナキナリ、然ラハ則國ハ強大ナルモノニ
 シテ、仍テ無上政法ニ服従セス之ニ背反スルコト多カル

ヘキカ故ニ無上政法ハ無効ナルヘシト、此一説豈ニ
 ソレ笑フ哉、キニ非ヌヤ、蓋シ國ハ強大ナルヲ以テ服従
 セス、強大ナルヲ以テ背反スレハ、則之ニ服従シテ背反
 セサル各國モ亦同シク強大ナルカ故ニ、數強大ヲ以テ
 一強大ニ對スルノ理ナレハ、則敢テ之ヲ服セシムル能
 ハサルノ理ナク、縱令時アリテ背反スルコトアリト雖モ、
 亦之ヲ制スルコトヲ得サルノ理ナカルヘキナリ、曰ク、然
 ラハ則數國相合シテ共ニ共議政法ニ違反ン之ヲ破ル
 コトアラハ如何曰ク、天下各國ノ過半ニシテ猶ホ斯ノ如
 クナルノ間ハ、未タ共議政府ノ設立スルニ非ヌ、共議政

府ノ設立スルコトハ、則既ニ斯ノ如キコトヲ得サル以上ヲ以テ設立スルモノナレハ、則右等ノ難問ハ決シテ吾儕カ所謂共議政府宇内憲法ノ論中ニ加ヘ來ルコトヲ得サルヘキナリ

又曰ク、天下ノ各個民人ハ其性十分完備セスシテ稍薄弱ナル所アルヲ以テ、各々孤立スル片ハ十分ノ福祉ヲ受クルコト能ハス、且ツ又一民人ハ各々私心アリ私欲アルヲ以テ、暴惡ノ所業ニ陥リ易キカ故ニ、他人ト結合シテ國家ヲ建テサルヲ得サルヘク、法律ヲ定メテ制限スル所アラサルヘカラス、之ヲ要スルニ、各個人ニ就テハ

則安寧福祉開化進歩等ノ爲メ、國家ヲ要セサルコトハナケレド、國家カ之ニ異テシテ完全強大ナルモノナレハ、則全ク獨立シテ少シモ他ト相結合スルコトヲ要セサルヘク、又道義ヲ具有スルモノナルカ故ニ、敢テ其上ニ法律ヲ設ケテ制限スルコトアルヲ要セサルヘシト、豈一マタ實ニ然リト為ンヤ、夫レ天然ノ人間ハ單小ニシテ而シテ人造ノ邦國ハ重大ナルニ違ハサレハ、其智識ト道義ノ上ニ於テモ一人民ノ智識道德ヨリ優ルヘク、全ク一人民ト同一ナルニアラサレド、而カモ亦五十歩ト百歩ノ差異アルノミニシテ、論者ノ云フ所ノ如キハ古

今ノ經驗曾テ之ヲ許サ、ルヲ奈センヤ、試ニ看ヨ古來
弱小ノ邦國ニシテ他國ノ為メニ侵犯掠奪セラレシモ
ノ多キニ非スヤ、強大ノ邦國ニシテ動モスレハ輒予他
ノ國ヲ蠶食併翦スルモノアルニ非スヤ、只此ノ二ヶ條
アレハ、則今ノ論者カ所謂國ハ完全ニシテ他ノ結合ヲ
要スルナク、國ハ道義アルカ故ニ其ヒニ法制ヲ要セサ
ルト云フカ如キハ、竟ニ破毀ニ歸セサルヲ得サルヘシ
況ンヤ、宇内政法ノ須要タルヲハ、上章中ニ於テ種々重
々ニ論スルカヨドク、其己ムヘカラサルモノ甚タ多ク
且ツ彼ノ各個人民上ヨリ之ヲ論スルモ、民人ハ帝ニ一ノ

國家ヲ要スルカニナラズ、更ニ宇内全區ノ上ニ涉レル
事物ニ就テモ、數多ク希望願欲スルモノアリテ而シテ
ソレカ爲メニモ亦必ス宇内ノ結合アリ、政法アルヲ要
スヘキナリ、豈ニ之ヲ須要トセサルト云フノ理由アラ
ンヤ、蓋シ國家ト各民トハ、唯其成立ヲ異ニシテ一ハ人
作ニ出テ一ハ天然ニ因ルト云フト、雖モ民ハ則人間ニ
シテ國モ亦其人間ヲ以テ成レル所ナレハ、則其質物ニ
於テハ素ヨリ同一ニシテ異ナル所ナク、而シテ各民ト
質ヲ同フスル國家ニシテ、既ニ世界ノ各處ニ生スル以
上ハ、則宇内ノ各國ニ於ケルハ、各地ノ各民ニ於ケルカ

如ク、必ス一個ノ連結會社ナキヲ得サルヘキナリ、當ニ然ルノミナラス、凡ソ國家ナルモノハ則人造ナルヲ以テ、大小強弱彼此相同一平均ナルヲ免ク、天造ノ人間ノ畧同一平均ナルカ如キヲ能ハサルカ故ニ、法制ナケレハ則ソノ間ニ生スル所ノ弊害、ソノ間ニ行ハル、所ノ惡事殊ニ多大ナルヘク、必政法アラサルヲ得サル可キナリ、無上政法ナルモノモ亦緊要ナラス哉、

第四 無上政法ノ方法及制度ヲ論ス

宇内無上政法ノ設立セサルヘカラサル所以、及ヒ之ヲ設立ス可キ理由、并ニ之ヲ設立スルカ為メニ生スヘキ

利徳效益ノ如キハ、吾儕既ニ之ヲ叙述セリ、今者豈ニ其方法制度ヲ論セサルヲ得ンヤ、夫レ吾儕カ所謂宇内無上政法ヲ設立スルノ大趣旨ハ、宇内ノ暴亂ヲ救正シ、世界ノ陋態ヲ改美ニシ、以テ天下ノ各國ヲ保護シ、其安全ヲ得セシメント欲スルモノナレハ、則其方法モ亦必此ニ歸着スルヲ是レ務メスンハアル可カラサルナリ、故ニ若其大要ヲ一言スレハ、萬國共議政府ナル者ハ、天下ノ各國ヲ視ルヲ、天下各國ノ其各民ヲ視ルカ如クナル可ク、然カモ且ソ專制政府ノ國家全土ノ事物ヲ以テ甚シク中央ニ收攬スルカ如キヲナカルヘク、最モ干涉主

義ヲ脫除シテ自主自由ヲ主トスルモノ、如クナルヘ
 ク、然カモ猶ホ國家ノ一人民ニ於ケルヨリモ其干涉ス
 ルトヲ淺小ニスヘク、最モ務メテ其政法ヲ寬舒ニシ、各
 國ノ自主自由ヲ妨礙セサル可キナリ、是レ其終始変ス
 ヘカラサルノ要約ナリ、故ニ時々ノ約束ス可キトト委
 細ノ規則トス可キ事ノ若キニ至テハ、則本躰ノ設立ス
 ル上ニ非サレハ論定シ難キモノアリト雖モ、只其必ス
 法則ト爲ス可クシテ已ム可カラサル所ノ大綱ヲ論ス
 レハ、大畧左ノ如クナル可シ、夫々吾國ハ西歐中ノ無
 一、平常各國ヨリ同數ノ議員ヲ出シ、憲法ニ循テ事ヲ

議シ、且ツ規則ヲ立テ、事務ヲ執ラシム可シ

- 一、共議政府ハ常ニ之ヲ置ク可シ、同議院議スル事
- 一、共議政府ニ入ルノ邦國ハ、立君政体共和政体等ノ
如キ渾テ其國政体政治ノ如何ヲ問フコトナカル可
シ、
- 一、共議政府ノ經費金ハ、別法アルニ非サル以上ハ連
合ノ各國ヨリ辨出ス可シ、
- 一、共議政府ハ、國ト國トノ間ニ就テノ權義ニ係ル事
件ノ法律ヲ立テ、國ト國トノ間ニ於ケル事件ヲ處
分スルコトヲ得可シ、

一 共議政府ハ各國ノ國內ノ事件ニ涉レル法ヲ立ツ
可カラス 國內ノ政治法律等總テ其事件ニ干渉ス
ルヲ得サルヘシ

一 各國中罪アリテ共議政府ヨリ其罪ヲ問ヒ之ヲ如
何スルコアルモ其國土ヲ没収スルコナカルヘシ
只其刑罰ヲ加エテ止ム可シ

一 共議政府ハ天下ニ對シ縱令事物ノ未タ開ケサル
國ト雖モ亦之ヲ保護シ其獨立ヲ貫カシム可シ

一 共議政府ノ議ニ不服アリテ其同盟ヲ辭スル者ア
ルハ共議政府ハ之ヲ許ス可シ

一 共議政府ハ天下ニ未タ國ヲ爲サザル者アリ及ヒ
既ニ國ヲ廢スル者アリトモ之ヲ壓虐スルコナカ
ル可シ

而シテ此外モ亦頗ル要ス、キ條則多カルヘシト雖モ
只タワレ此等ノ數條ハ最モ須要ニ係ル所ニシテ之ヲ
變スレハ則吾儕々所謂無上政法ノ大趣旨ヲ十分ニ達
スレヲ能ハサルヘシ故ニ右等ノ數條ハ無上政法ヲ設
立スルニ就テ必ス主目トセサルヘカラサル所ノモノ
ナリ

其他一國ノ中ニ在ル所ノ若干部民若クハ一國ノ属地
 若クハ數國ノ間ニ今属スル一地ノ人民 例ハハ印度ノ英國ニ於ケル
 澳ニ於ル等ノ如シ別ニ合立セント欲シ若クハ己ニ獨
 立シテ共議政府ニ訴ヘ來ルキハ則之ヲ聽キテ不是ナ
 ル所ナキヲ知レハ其獨立ヲ認許シ且之ヲ保護スル等
 ノヲアルヘク將夕之ヲ設立スルニ臨ンテハ固ヨリ天
 下ノ各國ヲ舉テ皆連結セシムルヲ好シトス可シト雖
 モ然カモ天下ノ邦國ハ各々其獨立ノ權アリ各々其土
 地ヲ異ニスルカ故ニ共議政府ハ敢テ必ス之ヲ強テ以
 テ同社ニ入ラシムルコトナク之ニ入ラスト云フ者ハ則

其自由ニ任セサルヲ得サル可シ然レモ同約中ニ入ラ
 サル者アル時ニ於テハ共議政府ハ其國ニ對シテ之ヲ
 保護スルニ義務ヲ負フヲナカサルハ各々同盟國トハ必之
 ヲ區別スヘキナリ且ツ同盟外ノ邦國ニシテ同盟中ノ
 一國ニ對シ若シクハ共議政府ニ對シテ害惡ヲ加フル
 者アルキハ如何様ニカ之ヲ處分スルヲアルヘシ但シ
 其國ヲ沒收スルヲハナカルヘキ也亦寛裕ヲ主トスレ
 ハ也然リ而シテ右等寛裕ノ方法規則ヲ以テセントス
 レハ人或ハ之ヲ疑テ恐クハ能ク設立シ難カルヘク縱
 令一タヒ設立スルモ亦永ク保存シ難カルヘシト云フ

者アラント雖モ吾儕ハ如此ニシテ設立スルヲ得且ツ保存スルヲ得ルノ無上政法ヲ設立シ且ツ保存セント欲スル也如此善美上等ノ無上政法ヲ造成セント欲スル也如此方法ヲ以テ為シ難キ的物ヲ作ラント欲スルニハアラサルナリ其他最モ正理ニ違背スルヲナキヲ要シ道義ニ悖戾スルヲナキヲ務メ各國ノ自由ヲ妨礙スルヲナキヲ是レ務ム可キナリ蓋シ若コトク共議政法ノ簡易ニシテ且ツ強猛ノ勢カナキモノハ便チ公平ノ結果ヲ得ヘキ所以ノモノニシテ轉タ之ヲ尊ムヘク之ヲ美トセサルヲ得サルヘキナリ又最初ニ共議

政府ヲ創立スルニハ則各國ヨリ若干ノ委員ヲ出サシメ共議シテ之ヲ為ス可キ也

第五 結論

以上是レ我カ無上政法ノ必ス設立ス可キ所以及ヒ設立ス可キ理由及設立スルカ為メニ生ス可キ利徳并ニ設立スル方法規則等ノ梗概也故ニ細小詳密ノ條目ニ至テハ未タ之ヲ盡サスト雖モ個ハ是レ之ヲ他日ニ議リ今ハ更ニ以上ノ數章ヲ覆説シテ姑ク這筆ヲ閣ク可シ
夫レ今日ノ若キハ天下各國ノ内勢ニ至テハ固ヨリ十

今ノ開明ニ至ルニ非サルモ、然カモ之ヲ古昔ノ未開野
 蠻ナル時代ニ較スルキハ、非常ノ進歩ヲ得タリト雖モ、
 唯リ宇内ノ形勢ニ至テハ未タ然ルヲ得スシテ、野鄙
 暴亂ノ域ニ在リト云ハサルヲ得サルナリ、故ニ吾儕ハ
 決シテ今日ノ自ラ建ツル所ノ一國家ノミニ安ス可ラ
 ス、還タ必ス一個ノ勢ム可キモノアリ、而シテ今ノ勢ム
 可キモノハ天下ノ各國ヲ廢シ、宇内ヲ舉テ一大共和國
 若クハ一大君主國ヲ立ツ可キニ匪ス、今日ノ世間ニ稱
 スル萬國公法ナルモノニ頼ル可キニモ匪ス、今日ノ萬
 國公法ノミヲ執行スルノ裁判局ヲ設置スヘキニモ匪

ス、國勢ノ平衡ナルモノヲ頼ム可キニモ匪ス、亞細亞ノ
 聯合策ヲ為ス可キニモ匪ス、今日ノ吾儕カ勉焉圖為ス
 可キ所ノモノハ萬國共議政府ヲ設置シ、宇内無上憲法
 ヲ立定スルニアルナリ、而シテ是事ハ公明正大最モ順
 應ノ事ニシテ無理タラス、無効タラス、不備タラス、危殆
 ナラス、狭小ナラス、能ク今日ノ如キ宇内ノ暴亂ヲ救正
 シ、以テ世界ノ治平ヲ致スニ足ル可ク、更ニ最モ自由幸
 福ヲ享受スルニ益アリテ、善美ノ結果ヲ得可シ、而シテ
 無上政法ノ民人カ國家ヲ建ツルノ理ヨリ推シ及ホシ
 テ必ス建テサルヲ得サルナリ、國權ヲ守ラント欲スル

ニ於テ必ス建テサルヲ得サルナリ、人間ノ性情ヨリ推シテモ亦之ヲ建テサルヲ得サルナリ、民権ヲ重シセント欲スル者ニ於テモ必ス之ヲ建テサルヲ得サルナリ、而今各國ノ益文明ニ趣クニ隨テモ亦建テサルヲ得サルナリ、且ツ無上政法ヲ設立スルキハ、天下ノ各國克ク其國ヲ小令シ、若クハ能ク其國ヲ解廢スルヲ得ルカ如キ開化ノ境域ニ進ムヲ得ルニ至ル可キナリ、又國家ノ兵備ヲ減少若クハ廢止スルヲ得ルニ至ル可キナリ、其他許多ノ利徳アル可キナリ、而シテ無上政法ハ天下民人ノ自主自由ヲ退歩セシムルモノニハ非ラスシ

テ却テ早ク各民ノ自主ヲ長進セシメ、各國ノ改進ヲ速カナラシムルノ捷徑ニ當ル可シ、畢竟天下ノ民人ハ今日ノ勢ヲ以テ此儘ニ自由ノ真境ニ届ラシムルヲ得難ク、今日ノ人民ヲシテ真成ノ自由境裏ニ臻ラシムルニハ先ツ其間ニ世界無上政法ト云ヘル一階梯ヲ要セサルヲ得サルナリ、而シテ吾儕カ所謂無上政法タルモノハ、決シテ強暴ヲ以テ之ヲ為サント欲スルニ非ラスシテ、最モ公正温順ヲ以テ之ヲ為サント欲スルモノニ係リ、且ツ我共議政府ハ畢竟天下ノ邦國ヲ以テ造成スルモノニシテ、一人民ヲ以テ組織スルモノニ非ラス、而

シテ國家ハ一民ヨリモ重大ナルカ故ニ、智識道德ノ二
者モ亦一人民ヨリ勝ル、^一疑ヒナク、其上ニ法制ヲ要
スル^一モ亦一人民ノ上ニ法制ヲ要スルヨリ少ナカル
ヘシ、故ニ吾儕カ無上政法ニ至テハ其法制最モ簡易ニ
シテ足ル可ク、最モ寛裕ノ方法ヲ以テ設立シ難キ^一ナ
ク、之ヲ設立シテ保持シ難キ^一ナク、即チ過強ニ馳テ暴
ヲ振ヒ各國ヲ厭スルニ至ル可キナ^一ク、微弱ニ陥テ保存
セサル^一モナカル可キナリ、而シテ吾儕カ所謂共議政
府タルモノハ、天下ノ各國ヲ以テ結成スルモノニシテ、
而シテ邦國ナルモノハ、強大ナルカ故ニ之ニ背反スル

トアルト云ハ、他ノ相會スル者モ亦強盛ナルカ故ニ
之ヲ制スルニ窮スル^一ナカルヘシ、而シテ世人ハ、偶國
家ヲ以テ完全ニシテ且ツ道義ヲ具有スル者ト為シ、各
民ハ小弱ナルカ如キニ非レ^レハ、各民ハ國家ヲ要スル
凡國家ハ其上ニ何等ノ政法ヲモ要セ^レト云フモノア
レ^レハ、古今ノ實驗^録迹ヲ觀ルニ、小弱ノ邦國ハ則他ノ邦
國ニ併兼翦覆セラ^レル、モノ多ク、強大ノ邦國ハ動モス
レ^レハ、他ノ國土ヲ侵掠吞食スル者アルヲ見レ^レハ、國家モ
亦決シテ完全ニシテ十分ニ鞏固ナリト云フ可カラス
道義アリテ過惡ニ傾クナシトモ云フ可ラス、^一帝ニ然ル

ノミナラス、國家ハ人造ニシテ其大小強弱各相拘一ナ
 ラサルヲ甚シケレハ更ニ其上ニ政法ヲ要ス可ク加之
 邦國ノ宇内政法ヲ要スルヲハ更ニ多ク、民人モ亦帝ニ
 國家ヲ建テタルノミニシテ満足スルヲ得難ク、更ニ
 全世界ニ涉レル事物上ニ於テ願欲志望スルモノモ亦
 コレアリテ、而シテ之レカ爲メニハ世界ノ政法ナクン
 ハアル可カラサルナリ、而シテ無上政法ノ旨趣ハ、宇内
 ノ暴亂ヲ抑制シ、天下ノ各國ヲ保護シ、各民ノ安全ヲ保
 タントスルモノナレハ、其方法ハ、曷メテ寛大ヲ主トス
 可ク、無上政法ノカハ、國ト國トノ間ニ係ル事件ノミニ

及フヲ得ヘク、決シテ各國ノ内事ニ干渉スルヲ得
 サルヘシ、但タ如此寛舒ノ方法ヲ以テスルハ、初メヨ
 リ之ヲ設立シ難カル可ク、一タヒ之ヲ設立スルト雖モ
 維持シ難カル可シト、惟フモノアルハ、シト雖モ吾儕カ
 無上政法ヲ設立セント欲スルモノハ、實ニ文明ノ意思
 ヲ以テスルモノニシテ、野蠻ノ心ヲ以テスルニ非ラス
 和平ヲ以テ之ヲ謀ラント欲スルモノニシテ、暴亂ヲ以
 テ之ヲ頓整セント欲スルモノニ非ラス、故ニ吾儕カ無
 上政法ニ至テハ、寛裕ノ方法ヲ以テ設立シ難キトナク
 之ヲ設立シテ保持シ難キトナク、若ク共議政法ノ簡易

ニシテ強猛ノ勢力ナキモノハ之ヲ創立スルニ就テハ
各國ヨリ委員ヲ出サシメテ共議共謀セサル可カラサ
ルヘシ是レ吾カ論ノ梗概中ニ就テ更ニ大綱ヲ擧クル
所ノモノ也斯ノ如クナルカ故ニ今日ノ宇内ニ於テハ
各國相對シテ存在スル以上ハ亦又宇内政法アラサル
ヲ得サルヘク吾儕ハ決シテ今日ノ國家ノミニ満足ス
ルヲ得サルナリ更ニ進テ無上政法ヲ設立セサルヲ得
サル也無上政法ヲ設立セサレハ則吾々ノ自由安樂ハ
未タ十分ノ域ニ至ルヲ得サル可キナリ吾々ノ福祉慶
快ハ未タ最大最多ノ境ニ進ムヲ得サル可キナリ吾

儕ハ豈之ヲ圖リ之ヲ成サ、ル可ケン哉夫有無上政法
而然後天下治天下治而然後邦國安邦國安而然後民人
康如此而然後人生最得自由最得自由而然後得至快極
樂於戲亦豈矣哉

自由

板垣政法論終

板垣政法論終

明治十四年三月十五日御届

神奈川縣平民

編輯兼
出版人

五古周

下谷區下谷練堀町
五十番地寄留



○政論彙纂

○目錄

政論○政事目的○政權論○國權論
憲法論○國會論○國會開設論

○第二回 內國勸業博覽會條例全書

會場全圖附
折本

全

賣

芝三島町

山中市兵衛

銀座二丁目

山中孝之助

弘

同四丁目

山中喜太郎

神田美代町

三行社

自由

010190532645

48-13771

一後分袂於城
下亦偏何山
重与東三科
如此得無近
海成沙河
國中

書
子後過
大空庵
法慈
只之寫會

唐楊子龍

全衛助郎社
論權



010190532645

48-13771

